



令和3年 12月 15日

No.90 号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸 哉
〈児童数 195名〉

TEL 623-6019

「小さな親切」作文コンクール 山形市教育長賞受賞 「気づかいのリレー」 4年石川香菜さん ～おめでとう！ 昨日 12/13(火)全校朝会にて“朗読”発表～

シーンと静まりかえった本校アリーナに、香菜さんの朗読の声が響きました。

題名は、「小さな親切」作文コンクール山形市教育長賞受賞作品「気づかいのリレー」です。春に、学校だより「いちよう」でも紹介した「大手町ごみ置き場での善行」を題材に、鉛筆の芯に心を込めて書き綴った作文です。去る 11/24(水)の山形メディアタワー8階での授賞式でも朗読を披露。YBCニュースや新聞でも取り上げられました。

特 選

山形市教育長賞

気づかいのリレー

山形市立第四小学校 四年 石川 香菜

「車が通るから片付けなくちゃ。」

と友達の手づきさんが言った。友達と三人で公園に遊びに行く途中、道路にごみがちらかっていた。カラスが集まるところにあるごみぶくろをついたようだ。ちらかっていたのは、生ゴミやカップラーメンのようきだった。わたしの家のごみじゃない。いやだな。本当は片付けたくなかった。わたしとふたばさんは、

「地いきの人がやってくれるよ。」

と言った。でも、手づきさんは、集まるところにあるようきとちりとりを持ってそうじを始めてしまった。だから、わたしもやるしかなかった。向かい側にある別の集まるところにあったようきで、ごみを集めることにした。取り切れないごみがあり、虫もよってきて、苦労した。しばらくすると、近所のおじいさんが声をかけてくださった。わたしは、助けてほしくて、

「ごみ捨て場がカラスにあらされていたから、そうじをしているんです。」

とこたえた。おじいさんは、すぐに自分の家からトンゴともえるごみのふくろを持ってきて一緒にごみの片付けをしてくれた。お願いしたわけではないのに、やさしい人だなと思った。少したつと、ランニングをしていたおじいさんが、何をしているのか聞いてくれた。事じようを話したら、おじいさんはポケットから出した手ぶくろをつけてそうじを始めた。す通りしてもいいはずなのにすごい。

ごみぶくろにネットをかけてしあげをした。やれるだけはやった。すっきりした。片付けをしている間に公園に行く時間がなくなつて、その場から一番近いわたしの家で遊ぶことになった。でも、なんだかそれでいい気がした。

その日の夕方、おじいさんが学校に電話をしてくださる。次の日には学校でわたしたちがしょうかいされた。おじいさんが「秋葉さん」というお名前だということも分かった。秋葉さんから話を聞いた担任の岩田先生は、

学校の帰りにコンビニの駐車場でごみを拾ったと話していた。その後、わたしはお母さんと一緒にごみを出しに行った。すると、ごみぶくろからはみ出して、ちらかっているごみがあった。近くにあるほうきを取りに行き、ごみを集め、ふくろに入れた。やっぱりすっきりした。手づきさんの一言から始まった片付けが、わたしとふたばさん、秋葉さん、ランニングのおじいさん、岩田先生、そしてお母さんとわたしにつながった。手づきさんがわたしてくれたバトンがリレーみたいにわたされていった。気づかいのリレーだ。

ある朝、友達と一緒に登校するとき、別の集まるところのまわりにもごみがちらかっていた。片付けた方がいいと分かってはいたけれど、勇気が出せなかった。はずかしいし、やっぱりきいたなと思ってしまった。今思い出すとくやしい気持ちになる。わたしは「気づかいのリレー」のバトンをもらうことができるのに、まだ手づきさんのような第一走者にならない。どうすれば勇気が出せるのかな。次はバトンをわたせるようにがんばりたい。



全校朝会“朗読”の様子

全校朝会では、1年生から6年生まで、背筋を伸ばして、香菜さんの朗読をしっかり聞いています。その姿は見事なものです。“よく聴く子は育つ”と言われますが、まさにそれです。自分の「目と耳と心」をつかう、五感をフル活動して関わりきることが、成長を促す一歩です。いちようの子が育つ秘訣を垣間見た瞬間です。

来週の21日（火）には、全校朝会（表彰）において、理科学研究発表や絵画、読書感想文の表彰を行います。その時に、香菜さんにも賞状の伝達を行う予定です。



香菜さんの朗読を受けて、校長講話を行いました。以下のその内容（骨子）です。

素晴らしい朗読でしたね。

香菜さんに、もう一度大きな拍手を贈りましょう。この拍手に込めた意味を振り返ってみます。

1つめは、こんなに大勢の前で、このアリーナの壇上で、ドキドキを乗り越えて「朗読」できたこと。（壇に上る不安や緊張に打ち勝つ経験は、必ずや今後生きてきます！）不安に打ち勝ち challenge する、そういう営みとその価値に大きな拍手です。

2つめは、友達と一緒にしておこなった「大手町ごみ置き場での善行」を文章に書き起こしたことです。鉛筆の芯に心を込めて書き綴ったからこそ、その心の様子がみんなに伝わった。表現したからこそ、たくさんの人に伝わり共感を生んだ、そういう価値に大きな拍手です。（表現する…文章だけではありません。話すことだって、身振り手振りで表すことだって、描くことだって、音を奏でることだって、すべて表現することです。思ったこと、感じたこと、考えたことを表現することで相手に伝わりますし、自分の中に新たな気づきが生まれます。ここが大切な価値です）

3つめは、題名通り「気づかいのリレー」をおこなってゆきたいという覚悟です。「気づかいの・優しさの・親切のバトン」を渡していこうとする心意気、第一走者になれるよう頑張ってゆきたいという思いに大きな拍手です。（みんなが持っている「行動するための小さな勇気の芽」を強く感じます）

皆さんは、メジャーリーガーの大谷翔平選手を知っていますか。背番号 17 番、二刀流（投げてよし・打ってよし）で、ア・リーグ MVP を獲得しました。その大谷選手のプレーを見たことがあると思いますが、野球を真から楽しむために、当たり前のことをサッとやるんですね。そうです。グラウンドにごみが落ちているのを見かけるとサッと拾ってポケットに入れるんです。

校長先生は、この大谷選手の行いと香菜さんの作文「気づかいのリレー」がつながってきます。当たり前のことをサッとおこなってしまう、そういう価値を大切にしたいと思うのです。（真に楽しむ、生き生きと生きるとはこう言うことなのだと感じます）今、いちよう児童会では、「廊下や階段のルールを守り、みんな笑顔で冬休みをむかえよう」というスローガンで「階段をぬかさない・走らずに右側通行・広がらない」取り組みを始めましたね。それに、一つ加えてほしいのです。それは、「**ごみをまたがない**」ということです。廊下や校庭を歩くとき、例えどんなに小さな紙くずでも、落ちていたごみをまたいで通り過ぎるのではなく（見て見ぬ振りをするのではなく）、拾いながら歩きたい。まずは、足下から（校内と自分の家）やってみたい。そうと思いますが、皆さんどうですか。・・・